



成田あれ・これ



令和5年5月号 第335号
発行：成田市観光協会
成田市花崎町839
0476-24-3198

新型コロナウイルスの影響によりイベントの変更や中止が生じる場合があります。
最新情報をご確認の上お出かけください。ご理解の程どうぞよろしくお願いたします。
尚、イベントの情報は令和5年3月16日現在です。

弘法大師ご誕生1250年記念

第39回 成田山平和大塔まつり奉納総踊り

「成田山平和大塔まつり奉納総踊り」は、1984年4月の弘法大師1150年の御遠忌にあたり、世界平和と万民の幸福を祈願して建立された「成田山平和大塔」の落慶を記念して始められました。

旧成田町7町の女人講をはじめ、市内各団体の皆様が揃いの浴衣姿で、成田山表参道・成田山大本堂前・平和大塔で踊りを奉納します。

【期 日】5月13日(土)

(雨天の場合は14日(日)、14日が雨天の場合は中止)

【時間・場所】

12時20分～ 成田山表参道

14時50分～ 成田山新勝寺 大本堂前・平和大塔

【お問合せ先】成田市観光協会 TEL 0476-22-2102



成田伝統芸能まつり 春の陣

「歌舞伎のまちナリタ」で出会う日本の伝統”をテーマに、歌舞伎公演を中心としたお祭りを開催します。
毎年大好評の「ご当地キャラ成田詣」も同時開催。全国各地のキャラクターによる楽しいステージイベントのほか、今年は成田山表参道でのパレードも行われます。

ほかにも歌舞伎のまちナリタを、ご家族で楽しめるイベント盛りだくさんの二日間です。

【期 日】5月20日(土)・21日(日)

【場 所】成田山総門前広場及び成田山表参道

成田市文化芸術センターなごみの米屋スカイタウンホール

【お問合せ先】成田伝統芸能まつり実行委員会(成田市観光プロモーション課内) TEL 0476-20-1540



房総のむら 春のまつり 「あそびと暮らし」をテーマに、伝統的な技の実演や民俗芸能の上演、昔の遊び体験など、ゴールデンウィーク期間中、3日間開催する盛りだくさんのまつりです。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予告なく中止・変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

【日時】5月3日(水・祝)～5日(金・祝) 9時～16時30分

【休館日】月曜日(月曜日が休日の場合は開館し、翌日休館)

【お問合せ先】千葉県立房総のむら TEL 0476-95-3333

弘法大師ご誕生1250年記念 成田山の美術

成田山には江戸時代初期の1655(明暦元)年に建立された旧本堂の薬師堂をはじめとする諸堂が遺されています。今回は中でも1858(安政5)年に建立された重要文化財の釈迦堂に注目し、安政の本堂の荘厳のために施された狩野一信の複数の大作を一堂に公開します。

また、真言宗の宗祖である弘法大師のもたらした密教の教えは、ここ成田山でも多くの美術品を生み出しました。それらには、時代を越えた豊かな祈りそのものの姿が昇華されています。今展では、成田山による「弘法大師ご誕生1250年記念大祭」奉修に合わせ、成田山文化財団の所蔵品を含めた寺宝も同時に公開されます。

【日時】4月22日(土)～6月18日(日) 9時～16時

【休館日】月曜日(月曜日が休日の場合は開館し、翌日休館)

【お問合せ先】成田山書道美術館 TEL 0476-24-0774

いざ！成田詣へ～街道旅日記～その⑦

明治初期の成田詣は、東京から来る場合、深川から行徳まで船で来て、船橋で一泊し、翌朝出発して成田街道を大和田、臼井、佐倉を経て、夕方に成田に到着するという片道2日の行程が一般的でした。

乗合馬車が成田町に登場したのは、明治16年(1883年)のことで、上町の薬師堂前に発着場が設けられました。1日2本と本数は少なかったものの定期的に発車し、朝、東京を出て、夕方に成田に着く便利さで多くのお客様を集めました。

当時の交通手段としては、水上交通も盛んでした。利根川沿いには安西河岸があり、高瀬舟が立ち寄っていました。(高瀬舟:河川や浅海を航行するための船底の平らな木造船。江戸時代になると日本各地に普及し、昭和時代初期まで、物資の輸送を主な目的として使用されました。)

長沼や根木名川へは、それより小さい伝馬船で荷を運び、寺台河岸まで往来をしていました。寺台河岸からは、米や木材・薪などを積み出し、東京や銚子からは醤油や塩・魚・肥料などが運びこまれました。寺台河岸は、成田山まで徒歩30分の場所にありました。川の両側に河岸問屋の土蔵が幾つも並び、その前には陸路を運搬する馬車や荷車が常に待機していたといえます。東京や銚子と交流する水運の要地であったといえるでしょう。

また、安西の少し下流にある新川河岸は旅人の往来が多く、明治17年(1884年)には、蒸気船・通運丸が寄航するようになり大変賑わいました。新川河岸から長沼を経て、宝田村までの伝馬船がお客様を乗せて運行していました。



「東京両国通運会社川蒸気往盛栄真景之図」 明治時代

成田の地も、蒸気船来航！という文明開化の華々しい雰囲気になり、東京や利根川が結ぶ広い流域からの参詣客で活気にあふれていたことでしょう。(次回へ続きます。)

イベント等の関連情報については、FEEL 成田(<https://www.nrftk.jp>)をご覧ください。